



K.Ishida

ジャパン・オータムインターナショナル

THE CHAMPIONS CUP

第26回 チャンピオンズカップ (GI)

1 着 2 着 3 着 4 着 5 着
本 賞 120,000,000円 48,000,000円 30,000,000円 18,000,000円 12,000,000円
付加賞 3,402,000円 972,000円 486,000円



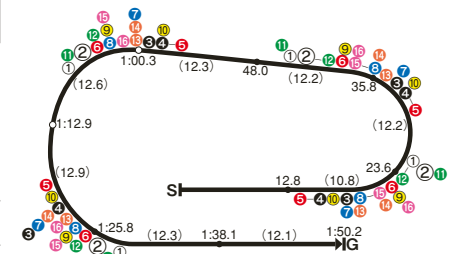
レース映像は
コチラでご覧
いただけます。

3歳以上、除未出走馬および未勝利馬
負担重量 3歳57^{kg}、4歳以上58^{kg}、牝馬2^{kg}減

2025.12.7 中京 晴・良 ダ1800m (国産) (確定)

順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム (管差)	コーナー 通過順位	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	②	ダブルハートボンド	牝4	56	坂井瑠星	1:50.2	2-3-3-3	37.1	474(-2)	7.3③	大久保龍志(栗東)	114
2	⑧	ウィルソンテソーロ	牡6	58	川田将雅	ハナ	10-9-6-6	36.8	484(-3)	7.3②	高木 登(美浦)	117
3	⑦	ラムジェット	牡4	58	三浦清成	2½	12-12-10-11	36.9	516(+0)	12.8⑦	佐々木昌三(栗東)	113
4	③	メイショウハリオ	牡8	58	武 豊	アタマ	12-12-13-11	36.7	504(+10)	16.2⑧	岡田稲男(栗東)	113
5	⑨	アウトレンジ	牡5	58	松山弘平	2½	5-5-6-6	37.6	492(-6)	8.2④	大久保龍志(栗東)	109
6	⑥	ハギノアレグリアス	牡8	58	岩田康誠	¾	5-5-4-4	37.9	494(+0)	114.8⑪	四位洋文(栗東)	108
7	⑩	テンカジョウ	牡4	56	国分優作	クビ	14-14-14-15	37.2	496(+1)	55.6⑩	岡田稲男(栗東)	103
8	③	サンライズジバング	牡4	58	池添謙一	¾	10-11-10-9	37.6	524(+17)	28.2⑨	前川恭子(栗東)	106
9	④	セラフィックコール	牡5	58	西村淳也	½	15-14-14-11	37.4	538(+10)	155.6⑨	寺島 良(栗東)	105
10	⑤	ベリール	牡5	58	佐々木大輔	アタマ	8-7-6-6	38.0	484(+2)	244.5⑤	黒岩陽一(美浦)	105
11	⑪	シックスペンス	牡4	58	C.ルメール	½	2-1-2-2	38.6	502(-1)	10.2⑤	国枝 栄(美浦)	104
12	⑫	ベブチドナイル	牡7	58	藤岡佑介	5	8-9-10-11	38.5	526(-4)	116.1⑫	武 英智(栗東)	97
13	⑫	ナルカミ	牡3	57	戸崎圭太	1½	4-4-4-4	39.4	508(+3)	2.2①	田中博康(美浦)	95
14	⑤	ヘリオス	騾9	58	原 優介	¾	16-16-16-16	38.1	466(-9)	331.8⑫	千葉幸喜(岩手)	94
15	⑥	ルクソールカフェ	牡3	57	F.ジューレ	5	5-7-9-9	40.1	550(+0)	10.7⑪	堀 宣行(美浦)	86
16	⑪	ウィリアムバローズ	牡7	58	岩田望来	7	1-2-1-1	41.8	490(-2)	143.8⑬	上村洋行(栗東)	76

単勝②730円(3½%) 複勝②250円(3½%) ⑧230円(2½%) ⑦320円(7½%) 枠連①-④1,420円(6½%)
馬連②-⑧2,300円(8½%) ワイド②-⑧910円(9½%) ②-⑦1,680円(22½%) ⑦-⑧1,010円(11½%)
馬単②-⑧4,160円(13½%) 3連複②-⑦⑧8,700円(30½%) 3連単②-⑧⑦36,790円(106½%)
5重勝⑤⑧⑥②190,520円(2.653票) 対象競走: 中山10R/中京10R/阪神11R/中山11R/中京11R



通過タイム: 600m 800m 1000m 上り: 800m 600m
35.8 - 48.0 - 1:00.3 49.9 - 37.3

アラカルト

- ・坂井瑠星騎手はレモンポップで制した23、24年に続くチャンピオンズC3勝目。本競走3連覇は史上初。JRA重賞は25年7勝目、通算26勝目
- ・大久保龍志調教師はチュウウウィザードで制した20年に続くチャンピオンズC2勝目。JRA重賞は25年4勝目、通算29勝目
- ・キズナ産駒はJRA重賞通算49勝目
- ・4歳馬の勝利は21年テオーケインズに続く通算5回目
- ・牝馬の勝利は15年サンピスタ以来10年ぶり、通算2回目
- ・非抽選馬 7頭(オメガギネス、テオードレフォン、テオーバースワード、ハビ、ブライアンセンズ、ポッドロゴ、メルト)

ダブルハートボンド *W Heart Bond*

牝 鹿毛 2021.2.3生
北海道安平町 ノーザンファーム生産
馬主・南シルクレーシング 栗東・大久保龍志厩舎
馬名意味・二つの+愛情をつなぐ。父名、本馬の馬体より連想

パースistentリーUSA系 F20-b

キズナ 青鹿毛 2010	ディーブインバクト 鹿毛 2002	サンデーサイレンスUSA ウインドインハーヘアIRE
	キャットクイルCAN 鹿毛 1990	Storm Cat Pacific Princess
パースistentリーUSA Persistently 栗毛 2006	Smoke Glacken 芦毛 1994	Two Punch Majesty's Crown
	Just Reward 栗毛 1999	Deputy Minister Heavenly Prize

5代までのインブリード：Mr.Prosector M4×M5 Northern Dancer S5×M5×M5

INTERVIEW

菅原洗 厩舎長(ノーザンファーム空港)

さらなるタイトルを期待します

前走(みやこS)がレコード勝ちでしたので調子落ちなどがなければいいと思っていました。メンバーも強化されていましたが、坂井騎手が上手くエスコートしてくれました。直線に入ってからの手応えも良かったのですが、ウィルソンテソーロに並ばれてからは固唾をのんでレースを見ていました。ダブルハートボンドには、今後もさらなるタイトルを期待します。

Y.Hamano



順調さを欠いてデビューが遅れ、3歳時の秋には骨折による休養も余儀なくされた本馬だが、初陣から6月の三宮Sにかけて無傷の5連勝をマーク。続くブリーダーズゴールドCで初の敗戦(2着)を喫したものの、次戦のみやこSはJRAレコードで快勝、中3週の間隔で挑んだGIの大舞台でも牡馬の一線級を撃破し、頂点の座へ駆け上がった。キャリア8戦目での戴冠は歴代2位タイ。秘めたポテンシャルの全貌は依然、見えていない新女王の前途には色とりどりの夢が広がる。

父キズナ

北海道新冠町 株式会社ノースヒルズ生産 中央、仏14戦7勝(日本ダービー^{G1}、大阪杯^{GII}、京都新聞杯^{GII}、ニエル賞・仏^{G2})、最優秀3歳牡馬、16年から供用。24、25年日本リーディングサイヤー、23、24年日本2歳リーディングサイヤー〔代表産駒〕**ジャスティンミラノ**(皐月賞^{G1})、**ソングライン**(安田記念^{G1}2回、ヴェイクトリアマイル^{G1})、**アカイト**(エリザベス女王杯^{G1})、**ダブルハートボンド**(本馬)、**ナチュラルライズ**(東京ダービー^{Jpn I}、羽田盃^{Jpn I})、**ディーブボンド**(阪神大賞典^{GII}2回、フォウ賞・仏^{G2}、京都新聞杯^{GII}、天皇賞(春)^{G1}2着3回、有馬記念^{G1}2着)、**シックスペンス**(中山記念^{GII}、毎日王冠^{GII}、スプリングS^{GII})、**クイーンズウォーク**(金鯱賞^{GII}、ローズS^{GII})、**ハスラットレオン**(ニュージラントトロフィー^{GII}、ゴドルフィンマイル・首^{G2})、**エリキング**(神戸新聞杯^{GII})、**マルタースディオサ**(チューリップ賞^{GII})、他に重賞勝ち馬多数

母パースistentリーUSA

北米16戦4勝(パーソナルエンサインS^{G1}、フリゼットS^{G1}2着、メイトロンS^{G2}2着、ベルデイルS^{G1}3着)、11年輸入、25年用途変更

トーセンゲイル(12 牡父ディーブインバクト)中央4戦0勝、地方4戦0勝
パーシーズベスト(13 牡父ディーブインバクト)中央20戦2勝
ステッドファスト(14 牡父ディーブインバクト)中央5戦0勝、地方18戦2勝
オブセッション(15 牡父ディーブインバクト)中央4戦2勝(シクラメン賞)
ブレイヴジャッカル(18 驛父ダイワメジャー)中央25戦3勝、障害1戦0勝
エバーフレッシュ(19 牝父ハーツクライ)中央6戦0勝

ダブルハートボンド 本馬(21 牝父キズナ)中央7戦7勝(チャンピオンズC^{G1}、みやこS^{GII}、三宮S^{GII}、舞鶴S、恵那特別)、地方1戦0勝(ブリーダーズゴールドC^{Jpn III}2着) 獲得総賞金245,094,000円

エンデュロ(22 牝父キズナ)中央3戦0勝、地方6戦0勝
(25 牝父インディチャンプ)

※16、20(流産)、17(生後直死)、23、24(不受胎)

祖母ジャストリワード Just Reward

アメリカ産 北米1勝

ボブル Bauble(05 牝父Tale of the Cat)不出走、**クイーンゴッデスUSA**
(アメリカンオークス・米^{G1}、ペガサスワールドC牝馬ターフ招待S・米^{G3}、ロバートJフランケルS・米^{G3}、サンタアナS・米^{G3})の祖母

パースistentリーUSA(06 前出)

ダブルジャックポット Double Jackpot(09 牝父Broken Vow)北米0勝、**ステイズインヴェガス** Stays in Vegas(セニョリータS・米^{G3})の母

接戦を制して10年ぶりに牝馬が制覇

下半期のダート王決定戦・チャンピオンズCには5頭のGI(ⅡI)ウイナIが集結。なかでも4月の1勝クラス戦から前走のジャパンダートクラシックまで4連勝中、破竹の勢いに乗ってクリソペリル(2019年)以来の、3歳馬制覇に挑むナルカミが断然の支持を集めた。しかし気性面の若さを露呈し、大敗(13着)を喫した同馬を尻目に手に汗握る一騎打ちを演じたのは、同じオッズで2、3番人気を分けた2頭。ハナ差で決着した接戦にはダブルハートボンドが競り勝ち、15年のサンビスタ以来、レース史上2頭目となる「牝馬制覇」を成し遂げた。

先に手を主張したウィリアムバローズに折り合いを欠いたシックスペンスが絡み、レースは緩みのない流れで進行。2頭と互角の勢いで飛び出したダブルハートボンドの坂井瑠星騎手は向正面で一步引き、離れた3番手に腰を落着ける。近3戦は逃げの戦法で白星を重ねてきたナルカミは直後の4番手を追走。対して前2年(ともに2着)の雪辱もかかるウィルソンテソーロは、中団の内で末脚勝負に構えた。

迎えた4コーナー、楽な手応えを保ったまま、前の2頭に迫った坂井騎手は直線の坂の上りからスパート。鋭く反応したダブルハートボンドが先頭に躍り出た坂上、その内を突いてウィルソンテソーロが襲い掛かり、熾烈な追い比べが幕を開ける。お互いに一歩も譲らず、鼻面を並べてゴールに飛び込んだ両馬だが、勝利の女神はダブルハートボンドに微笑んだ。

順調さを欠いてデビューが遅れ、3歳時の秋には骨折による休養も余儀なくされた本馬だが、初陣から6月の三宮Sにかけて無傷の5連勝をマーク。続くブリーダーズゴールドCで初の敗戦(2着)を喫したものの、次戦のみやこSはJRAレコードで快勝、中3週の